

まち歩きがもっと楽しくなる♪

西大泉コース

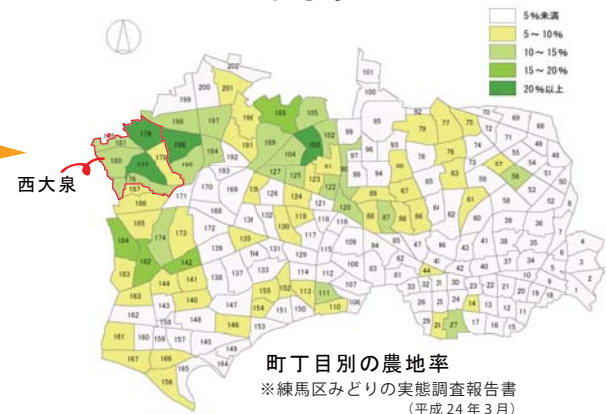
景観ガイド



緑の多いまち

西大泉は、近世より江戸の近郊農村として発展してきました。全体的に屋敷林や生産緑地が多く残り、区内でも特に緑の多い地域です。

昭和40年代の西大泉の風景
(写真提供：永田様)



広い畑と大きな空



西大泉では、野菜や芝の畑が多くみられます。視界が広いので夕暮れの空に描かれるスカイラインも美しく、季節や時間帯で刻一刻と変化する西大泉らしい景観を見ることができます。

風景スポット 4 / 景観資源 ●G209

屋敷森と畑



練馬の原野は、江戸時代の初め頃より開発されて田畑となり、樹木が植えられるようになりました。屋敷の周りに植えられたものは屋敷森(屋敷林)と呼ばれ、農家の生活にかかせないものでした。風土に育まれた生活景(せいかつけい)です。

風景スポット 1・3 / 景観資源 ●G209・G369 ●S71

果樹のある風景



ブドウやウメ、リンゴ、ブルーベリー等色んな果樹と出会えるのも、楽しみのひとつ。寒い季節には、住宅の庭先に植えられている柿や柑橘類の橙色・黄色がまちに彩りをそえます。

景観資源 ●G369・G370 ●L61

清戸道と四面塔稲荷神社



清戸道は練馬区を東西に横断する旧道のひとつで、古くから練馬の農村経済を支えてきました。諏訪神社西側を北上し、四面塔稲荷神社の北側を西に曲がって清瀬市にむかいます。四面塔稲荷神社は、江戸初期からあったそうです。

風景スポット 4 / 景観資源 ●A77

いずみ商店街



昭和30年代の高度経済成長期には、道路舗装が進み、多くの住宅が建設されて人口も大きく増えました。いずみ商店会の創立は東京オリンピックが開催された昭和39年(1964)。持家でお店をひらいている方が多いので、職住共存で住宅街に密着した商店街です。

ベンチのある優しい街角



西大泉に拠点をもつ「円居(まどい)の会」※の皆さんは、まちの方々と協力しあって「ちょイス」と名づけた誰でも座れるベンチやイスを設置して、一息ついたり人との出会いの場をつくりだしています。

※平成21年からベンチの設置活動をしているボランティア団体です。

風景スポット 5 / 景観資源 ●A135